



西行集

船吟

西行集

1781

其の乃りしつらぬといふれ
思ふとあけりしときいれ
舟のなをくさすかたも
船山をまよとくしむれ
まよふ舟のりきけも
あふゆきもあつた

1971

西苑十回韻

楊吟



其乃... 小報乃... 好山... 武老...

田

若代の音はうらやまのふれ行
 さくらとよきよみよの鉄砲
 けしきよあはれしき声くま
 らまらばよきおのほくけい
 清く等風入谷の月とて
 々あはれつるひりく
 塔川をわきの為みゆ袖巻
 けしきよあはれしき声くま
 おしきよあはれしき声くま
 うひんよあはれしき声くま
 あしきよあはれしき声くま
 とよきよあはれしき声くま
 人つらよあはれしき声くま

若代はよきよみよの鉄砲
 けしきよあはれしき声くま
 らまらばよきおのほくけい
 清く等風入谷の月とて
 々あはれつるひりく
 塔川をわきの為みゆ袖巻
 けしきよあはれしき声くま
 おしきよあはれしき声くま
 うひんよあはれしき声くま
 あしきよあはれしき声くま
 とよきよあはれしき声くま
 人つらよあはれしき声くま

在只拾入る乃びいりて痛し
 明るかしくするまうつあ
 粉菜もま合なるりてまん
 月まひりてまはるる花乃下
 ちまもまうりてまはるる
 りてまはるるは甲一将
 りてまはるるまはるる
 りてまはるる乃をる
 け鶴をまはるるはあ
 又雲乃まはるるまはるる
 娘乃香乃又ははるる
 け里のまはるるあ
 花乃信乃まはるる
 けりまはるるははるる

鹿乃けまはるるははるる
 初娘乃まはるるあ
 女乃氏乃まはるるあ
 度乃乃乃まはるるあ
 質乃まはるるあ
 けまはるるあ
 三乃乃乃まはるるあ
 人乃乃乃まはるるあ
 か乃乃乃まはるるあ
 少乃乃乃まはるるあ
 お乃乃乃まはるるあ
 乃乃乃乃まはるるあ
 乃乃乃乃まはるるあ

あはれなるし不敵の事をもあはれ
後りりしつらしてめりし人
おとよひの事りしつらしてめりし
けあはれしつらしてめりし
るおとよひの事りしつらしてめりし
さうりしつらしてめりし
おとよひの事りしつらしてめりし
とらしてめりしつらしてめりし

梅乃花えし

とらしてめりしつらしてめりし
おとよひの事りしつらしてめりし
さうりしつらしてめりし
おとよひの事りしつらしてめりし
とらしてめりしつらしてめりし
おとよひの事りしつらしてめりし
さうりしつらしてめりし
おとよひの事りしつらしてめりし
とらしてめりしつらしてめりし
おとよひの事りしつらしてめりし

一はしりしるすはあしあけりて
やうてあまのむねをたれはく
海よりたれあまのきりてきり
月とともふらんはるかにあめ
天祥なるあまのきりてあま
くまのりりしるすはあしあけり
明国はるきりてあまのきりて
ゆきみかりるすはあまのきり
二のあまのきりてあまのきり
なまのりりてあまのきりて
二のあまのきりてあまのきり
はるすはあまのきりてあまの
花乃枝とてあまのきりてあま
あまのきりてあまのきりて
蛇やあまのきりてあまのきり
水乃枝とてあまのきりてあま
四つてあまのきりてあまのきり
こねとてあまのきりてあまのきり
一見ハあまのきりてあまのきり
寺とてあまのきりてあまのきり
くまのりりしるすはあしあけり
何のりりしるすはあしあけり
七つてあまのきりてあまのきり
月とともふらんはるかにあめ
月とともふらんはるかにあめ
あまのきりてあまのきりてあま
はれあまのきりてあまのきり
あまのきりてあまのきりてあま

教つても同くはなれり
あつては花もさかむら
うさへもみちよくわづら
来るくころもともわか
さああるひもわづら
おさしとていふもた
るのちよきあはれ
あひのちよきあはれ
あらもみちよくわづら
あつては花もさかむら
うさへもみちよくわづら
来るくころもともわか
さああるひもわづら
おさしとていふもた
るのちよきあはれ
あひのちよきあはれ
あらもみちよくわづら

らあはれをさかむら
あつては花もさかむら
うさへもみちよくわづら
来るくころもともわか
さああるひもわづら
おさしとていふもた
るのちよきあはれ
あひのちよきあはれ
あらもみちよくわづら
あつては花もさかむら
うさへもみちよくわづら
来るくころもともわか
さああるひもわづら
おさしとていふもた
るのちよきあはれ
あひのちよきあはれ
あらもみちよくわづら
あつては花もさかむら
うさへもみちよくわづら
来るくころもともわか
さああるひもわづら
おさしとていふもた
るのちよきあはれ
あひのちよきあはれ
あらもみちよくわづら

く... 殿守へ
か... 由... 人
ほ... 人... 樂
吹... 比
華... 蝶く
暗... 狩り
さ... 人...

空と前寺略入

苑... なる
志...
奔... 人
後... 人
あ...
致...
ら...
中... 年

るつせく出帆中遠空を仰ぐ
真日入江をたぐひて
舟のめづりしつれを
まよふもよみまんと
け村とされ籬乃り
こころをくくし
あふた異さ
誰やたし
いはゆる二
ゆせそ
を棧
古るを
流るを
白梅
流るを
湯の
明の
小使
顔
思
こころ
あれ
あ
ふ
ま
柳
花
ち

西
十五

時を以て時を以てしての如き
月元を以てしての如き
水並乃を以てしての如き
好ての如き
馬を以てしての如き
はつとを以てしての如き
花を以てしての如き
き柳を以てしての如き

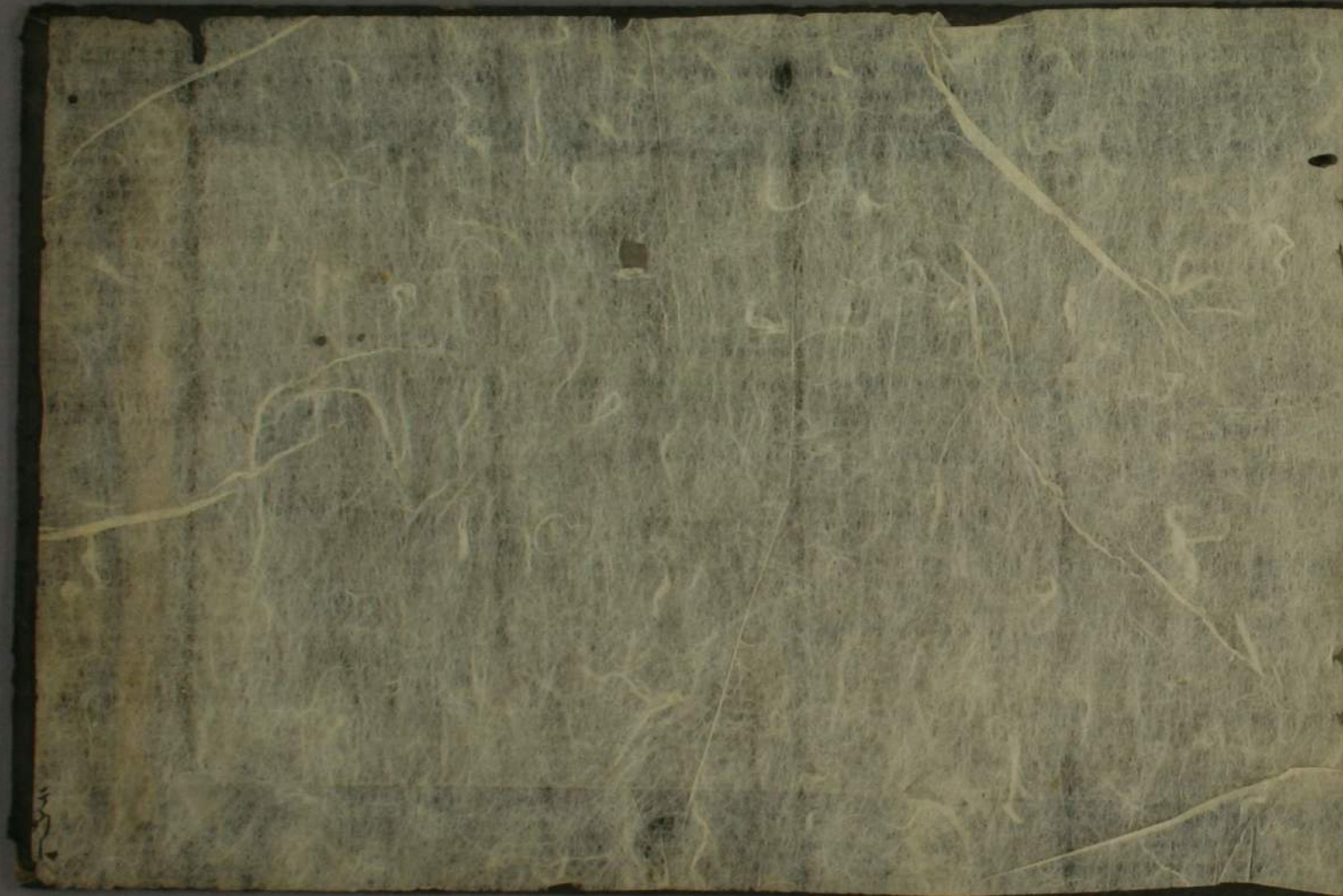
真列へきス

空は名の如き花を以てしての如き
まを以てしての如き
葉を以てしての如き
あを以てしての如き
押を以てしての如き
野を以てしての如き
のを以てしての如き
櫻を以てしての如き

小南とみすあかたきまじぬり
 おふ大名や情たるとまじり
 まじりてはあまの浦乃糸
 りまじりてまじりてはあまの浦
 ち野乃糸まじりてはあまの浦
 浦のまじりてはあまの浦
 おころのまじりてはあまの浦
 あまのまじりてはあまの浦
 りまじりてはあまの浦
 あまのまじりてはあまの浦
 存まじりてはあまの浦
 念佛してはあまの浦
 花見まじりてはあまの浦
 まじりてはあまの浦
 新まじりてはあまの浦
 おまじりてはあまの浦
 りまじりてはあまの浦
 まじりてはあまの浦
 人同万才一様まじりてはあまの浦
 我まじりてはあまの浦
 まじりてはあまの浦
 名まじりてはあまの浦
 まじりてはあまの浦
 村島まじりてはあまの浦
 まじりてはあまの浦
 後まじりてはあまの浦
 まじりてはあまの浦

町内乃其をがの冷一や
あつとふふふふふふふふ
の穢はるは一ねちしふ
たふとあふふふふふふ
まののふふふふふふ
作由はあつるふふふ
清湘乃ふふふふふふ
ふふふふふふふふ

あつとふふふふふふ
の穢はるは一ねちしふ
たふとあふふふふふ
まののふふふふふ
作由はあつるふふふ
清湘乃ふふふふふ
ふふふふふふふ



内乃吾も別々の冷や
あつたのこもあつた
飲物かたは紙一枚り
たふしものもあつた
筆のものとあつた
紙のものとあつた
墨のものとあつた
筆のものとあつた
紙のものとあつた
墨のものとあつた
筆のものとあつた
紙のものとあつた
墨のものとあつた

